

いずこかへの短信…へそ曲がり…

小幡 永

○月○日 長野県人は付き合いにくい？

天気晴朗なれど血圧高く、帯状疱疹いまだに痛し。二十歳4人分プラス4歳も生き長らえてしまった頑固で偏屈なへそ曲がりの爺さん。へそが曲がっているから多くの人に迷惑をかけてきた。

会社に三十八年勤め定年を迎えた時、小・中学生に囲碁の手ほどきをしてのんびり余生を楽しもうと思っていたら、次々仕事が舞い込んできた。民生児童委員、保護司、児童の見守り活動、神社の氏子総代、小・中学校の学校運営協議会委員（当時は学校評議員）などを依頼され全部引き受けてしまった。一つ引き受けるたびに「こんな偏屈でへそ曲がりでもないですか？」と打診すると、「偏屈な人、大好きです」と言ってくれたので、その気になってへそ曲がりになったのであった。自他共に認めるへそ

曲がりである私に向かって「長野県の人には理屈っぽいから嫌いだ」と言う人がいた。私は長野県出身で三重県へ渡来した人間である。だから「長野県人は・・・」と言われると、心の丸い長野県の人たちに悪いことをしているようで胸が痛む。

私は本当にダメな性格で困った奴なのだ。性格が偏り過ぎているのである。善か悪か、良いか悪いか、右か左か、上か下か、白か黒か、とにかく中間がない。二つに一つしかなく、「どちらでもいい」という妥協が薄い。ただし、思想や正義に関しては中庸で、常に真ん中に心を置いている。へそは曲がっていても、曲がったことは大嫌いだ。清濁併せ呑んでいれどもつとうまく世渡りができたであろうが、濁が呑めなかった。だから身の程も弁えず周囲の人に失礼をいっばいしてきた。

へそ曲がりの最も悪いところは、石橋

を叩いて渡るなどということができないこと。むしろ、危ない方の橋を渡りたくなる。事実何回も危ない方の橋を渡って失敗してきた。今年はオリンピックがあったが、メダルを取った選手だけが脚光を浴びているのが気に食わない。負けた方がいいじゃないかとへそ曲がりには思うのだ。勝つことだけが立派ではなからう。へそ曲がりのこんな性格を直そうと思っても、その場になると本性が出てしまう。身も心も悪いところだらけで、全身が短所。気も短く、おまけに足まで短いから情けない。へそ曲がりの失敗談ならいくらでもある。

会社では広報を作成したり社員教育を担当してきた。社員教育では従業員の人生設計とモチベーションを高めるための「心構えの冒険」を主テーマとし、「人は考えたとおりの人間になる」ことをベースにしている。幅広く中堅社員から管理職が受講するが私はそのコーディネーターを務めた。研修中に現場の部長から「小幡さんの教育は古臭い。時代遅れだ」と言われたことがあり、ついカッとなって「私はあなたに教えること

はあつても教わるモノは一つもない」と突っぱねたが、これがへそ曲がりの恐ろしいところ。言つてはいけないことを軽輩でしかも若僧の口から出てしまう。だけれどへそ曲がりにも意地はある。地位に關係なく何でも言えるのがへそ曲がりの強みだ。私を見て長野県の人はいんなが変人でへそ曲がりだと思つてもらつては困る。信州人（長野県）は心が優しいから安心してほしい。鈴鹿に住んで六十有余年。鈴鹿に住んで鈴鹿の文化のすばらしさに気付いた。六十年前にびっくりしたことがある。

「まあええやないか！」という方言だが、長野県にはない言葉。揉め事が起きそうな時に誰かが一言「まあええやないか」。これで万事収まり、お互いの仲が保たれる。「まあええやないか」となれば喧嘩は始まらない。どこかの国の大統領にこの言葉を聞かせてやりたい。そうすれば戦争なんかたちまち終つてしまうだろう。鈴鹿の皆さんと三重県の皆さんは喜んでもらいたい。「まあええやないか・・・」という、人間關係をまるやかにさせる言葉に誇りを持つていただきた

い。長野県の人たちに「まあええやないか」という言葉を伝播させて、理屈っぽい民族のイメージを払拭したい。「まあええやないか」からは平和で明るい笑顔が浮かんでくる。

○月○日 医者嫌いの顛末

検査の結果、目には見えない出血があると言われ大腸を内視鏡で調べることになった。腸をきれいにするために多量の薬液を飲むのだが、この液体がすこぶる飲みにくい。幾つものポリープがモニターに映し出され、大きいポリープの肉片を採取していた。一週間後に主治医から、「よくない三つを切除する」と言われたが私は切除を拒否した。再三の勧めを頑として拒む私に医師は「これについては同僚の医師と相談した。どうしても切除させて欲しい」と頭を下げられ、渋々OKをした。主治医はどこかで会つたような気がすると思つたら、よく歴史に出てくる織田信長に似た気の短そな顔をしている。切除の日に付き添いにきた妻を見て医師が「奥さん、今の時代はもう頑固な人はいないと思つていただけ、こ

こに一人いましたよ」と言つたので手術室に爆笑が響いた。信長さんの手さばきは見事だった。というのは、数年後に再発してポリープを取つた時の主治医が下手だったのだ。女優の八千草薫に似た美人先生だった。私が尻を指差して「こんな汚いモノを美しい先生に見せて申し訳ない」と言うと、美人先生は「わたしはち医師は肛門も口の中も同じです」と優しく答えられた。しかし腕の方は修行が足りないのか、六十分の地獄を味わつた。顔の美しさと執刀の腕はイコールではないことを知らされた。

○月○日 漢詩から学べるもの

へそ曲がりにも役に立つてることがあつた。近隣の中学校の運営委員をしていた時は、週に一度校内の防犯を兼ねて教室を覗くことがあつた。ある日、3年生の漢詩の授業で孟浩然の春暁が取り上げられており、先生の説明に、おや？ と思うことがあつた。私は漢詩の作り方、鑑賞の仕方をかじつていたので、春暁についても自分なりに深読みができた。教室ではこの詩の内容を2〜3分で説明

し、齒の浮くような美的感覚の詩として教えていた。校長室へ戻つてM校長に「漢詩の授業を見学したが、春暁はもつと違つた角度から鑑賞して欲しかった」といつものへそ曲がりの悪い癖が出た。「漢詩を作つたり鑑賞する立場からすれば孟浩然という人物を・・・」と要らぬことも言つてしまつた。M校長は「漢詩を作るの？」と興味を示したので、漢詩にはたくさんの約束事があり、しかも結句の下三字から作ることなどを述べると、「それを生徒に教えてやつてくれないか」と言われた。そこで三学期の最も大切な時期に時間をいただいて漢詩の作り方と鑑賞の授業をした。漢詩は好き勝手な文字を使えないけど、それらを無視して七言絶句の一行を生徒が作つた。次に鑑賞では中国の唐の時代の王昌齡の芙蓉楼送辛漸（ふよろううにしんぜんをおくる）という詩を二十分ほどかけて話し、この詩のすばらしさを知つてもらつた。

特に力説したのは転句と結句で王昌齡の清らかな心を生徒に伝えた。すると驚いたことにあるクラスの女子1名と

男子1名、べつのクラスの男子1名が目
に涙を浮かべて「王昌齡のような人にな
りたい」と私の手を握つてきた。王昌齡
に感動したあの時の生徒は今どうして
いるだろうか。王昌齡に一步でも半歩で
も近づいてくれたであろうか。

漢詩の授業の結末は、各人が作つた漢
詩を短冊に書いて卒業式の体育館の壁
に飾つたのであつた。生徒の多くの感想
は、「漢詩つてこうやって作るの」とい
うことと「つまらない漢詩にみえたが、
実は心を打つとてもいい詩だといふこ
とを知つた」などのうれしい声を聞い
た。私を融通の利かぬへそ曲がりにさせ
たのは何を隠そう王昌齡なのだ。

王昌齡を知つたら、金も名誉もいらな
くなる。ただひたすら清らかな心で自
己主張を曲げない人間になりたくなる。
王昌齡もへそ曲がりに違いない。私はま
もなくあの世へ旅発つが、あの世で王昌
齡に逢いたいと思う。

○月○日 貧乏つてなに？

私は8人兄弟姉妹の下から3番目。8
人いたきょうだいも残っているのは二

人だけになつた。きょうだいが8人もい
ると毎日が戦争である。父は小学校の教
員をしていたが親子合わせて十人が食
べていくには大変だつた。長野県の冬は
寒い。私の履く足袋がない。兄たちのポ
ロポロになつた足袋が私に回つてくる。

つぎはぎだらけの足袋に下駄。凍つた
山路を5分も歩くと言先感覚がなく
なる。いつも困るのは昼の弁当。食べ盛
りが8人もいれば父の給料で足りるは
ずはない。時代は戦後の食糧難の頃で、
やつと麦飯にありつけるかどうかであ
る。母は弁当で苦労した。例えば、高校
生の兄たちと弟と父の弁当までは何と
かバランスをとつて弁当箱に詰めるこ
とができるけど、あと一つ私の分までの
ご飯がないことがよくあつた。そんな時
に母は「永、お前は辛抱してくれないか」と頼み込む。昼になると家に食べに行く
振りをして校庭の木の下でじつとして
いた。またある時は、父と弟と私の三人
の弁当が作れない非常事態が発生する
こともあつた。そんな時は私が大きな籠
を背負つて学校へ行き、農協の始まる時
間がくると先生に理由を話し、配給の米

をツケで買って家に帰り、弁当を作つて父と弟に届けたこともあった。今考えると授業中に米を買いに行つて弁当を・・・などということをして先生がよく許してくれたものである。学校給食などという言葉すらなかつた頃で、日本中が貧しかつたからこそ先生も許してくれたのだと思ふ。最も嫌だつたのは月に二十円の修学旅行の積み立て兼学級費。貧乏人の気持ちの分からぬ金持ちの女の子が会計係で厳しい請求があるのだった。「忘れてきた、明日は必ず」で誤魔化していたが、タイムリミットがくる。同じ事情の

クラスメイトが三人いたが、私はいざとなれば職員室の父のところへ行けば何とかなるからまだよい方だった。しかし父も文無しで隣の先生から二十円を借りることもあったから子供ながらに驚いたものだった。当時の金銭感覚でいうと修学旅行は六百円と旅館に納める米2合が必要で、六百円がなくて修学旅行に行けなかつた生徒がいたのである。8人きょうだいのうち私が一番辛い目に遭う機会が多かつたので、本当に母の子なのだろうかと思つた。

ある。きょうだいの中で特に私が我慢に耐えてきたが、やがて年老いた父母を引き取つたのが私で、両親におもしろい不思議な縁を感じる。

金持ちイコール幸せではなく、貧乏イコール不幸でもない。貧しい家庭で育つたからこそ、それが起爆剤となつて今の私が培われたのだと感謝している。私の幸せの第一条件は私自身の貧しさである。貧しかつた子供の頃のことは忘れないが、貧しかつたことをひがんではいない。今はありがたいことに日本中幸せに満ちている。もし明日食べる米がないという事態が生じても、少しも驚かない。喜んでそれを享受する自信はある。

貧乏といえば笑える話がある。私は近くの小学校で学習ボランティアをしているが、もうこの歳だから今年にはボランティア登録をしなかつた。するとしばらくして「復活してくれないか」と電話が入り、今年は5年生のお手伝いをすることになった。笑えるかわいい話というのは3年前の1年生の授業でのこと。私のバッグに付けている鈴を生徒が欲しいと言ひ出した。みんなが欲しい欲

しいと叫び始めたので「小幡サンはね、貧乏だから鈴をやれないの」と言うのと、「貧乏つて何？」と今度は貧乏つて何？の大合唱。男の子が「貧乏つてお金がないことやで」とみんなに教えると、女の子が「うちのお母さんなんか1万円持つてる」と自慢げ。そばにいた男の子が負けじと「うちのお母さんだつて1万円あるでな」と大きな声。それを聞いた女の子が走つてきて「うちのママなんか五百円も持つてるんよ」と得意顔である。こうした純真な生徒に囲まれて授業ができることは何よりの幸せだ。貧乏という言葉が発したためにすばらしい回答をもらえた。私は生徒から、大切な宝物をいっばいもらつている幸せ者なのだ。

○月○日 もう一人のへそ曲がり

私の他に偏屈でへそ曲がりな人はいないと思つていたら身近にいなではないか。保護司会で広報を作ることにになり、第1号をどのような形にしたらよいかを検討され、かつて広報を手懸けていた私が担当することになった。その第1号に登場してもらつた人の中に北

川昇三さんがいた。北川さんは私と違って立派な人であるが私と共通するところがある。良いか悪いかわか黒か・・といった点が同類項。頑固一徹へそ曲がりて正義感が強い。北川さんを見てると正直な人ゆえに、人生で不利益を被ってきただろうなと思ってしまう。北川

さんは嘘や誤魔化しをしない人で、義を見てせざるは勇なきなりを地で行く御仁だ。この人のへその曲がり方には、とても歯が立ちそうにない。詳しくは書けないが、あることに納得できなくて保護司を辞めてしまったのだ。ミスターへそ曲がりの称号を与えなくなるほど、真っ直ぐに生きる人である。北川さんとは激論を交わしても和して同ぜずで人間関係にヒビが入らない。保護司にもいろんなタイプがいるが、北川さんは保護観察対象者の更生を図るために全身全霊を以って取組んでいた。

罪を犯した人、少年院や刑務所から出てきた人に社会は非常に冷たい。親や兄弟、友達からも見捨てられ、警察で油を絞られ、やっと刑期を終えて出所するのである。せめて保護司ぐらいが温かく抱

きしめてやらねば生きてゆけない。こうした姿勢で北川さんも私も保護司活動をしてきた。今でも二人で「薬物乱用防止」の出前授業を実践している。

○月○日 個人情報って？

個人情報は大切である。個人の秘密は守られるべし。しかし個人情報という便利な方便によって自分に都合の悪いことは「個人情報だから」の一言で片付けられてしまうのは残念だ。郵便配達の人に道を聞いたら、「個人情報になるから教えられない」という返事があつて言葉

を失った。
あることで中日新聞の鈴鹿・亀山版に掲載され、1年後に今度は「この人」というコラムに再度載ったことがある。新聞社から静岡、岐阜、愛知、福井、石川、富山、長野の各県から問い合わせがあるから住所と電話番号などを教えてもいいかと聞いてきた。私は即座に「私如きにプライバシーも個人情報もない。むしろ堂々と名乗りたいから教えてやって」と伝えると、担当者から「そういう人ばかりだとありがたい」との返答があつ

た。「この人」というコラムに載ったおかげで多くの人と交流をすることができた。テレビの料理番組を見ているとたまに「企業秘密だからカメラはダメ」という場面に出合う。これも寂しい話だ。教えてやったっていいじゃないの。器量の小ささがその料理の品格を落としていることに気付いていないらしい。へそ曲がりのダメなところは、こんなどうでもいい問題にカッ力する、みっともない心を晒してしまうところ。救いようのないアホなのだ。

○月○日 今生の別れの旅をはじめ

私は多くの人に迷惑をかけてきた。若い頃から新入社員（特に女性）に「小幡サンは惜しまれて早く死ぬタイプだから大事にするんだよ」などと嘯ってきたが、こんなに長生きするとは思ってもみなかった。定年の送別会の席で女性たちから「早よう死ぬと思って大事にしてきたけど損したなあ」と大笑いされてしまった。

ここまで生かしてもらえれば恩返しが必要。お世話になった先輩後輩にお礼

の言葉をかけなければならぬ。先輩のほとんどはこの世にいないけど後輩はまだ間に合う。昨年は東京の後輩と徹夜で語り明かして、心ゆくまで今生の別れをしてきた。遠くの者には手紙でお礼をさせてもらっている。

悲しいことがあった。小学3年生の時のH先生に会いたいと思ひ消息を尋ねると、先生は認知症になつていて施設に入居されていた。H先生は私に愛と勇氣と真心をくれた恩師である。師範学校を卒て初めての生徒が私のクラスであった。美しく優しい先生であった。私は教員住宅にいたけど、昭和二十四年当時は家に風呂はない。銭湯にはめつたに行かない私を、学校の風呂に入れて身体を洗ってくれたのであった。また、H先生は生徒全員の爪を切ってくれたりもした。先生は人として大切なことを教えてくれた。私の初恋の人かもしれない。その恩ある先生を訪ねようとしたが遅かった。入居先の茨城県の施設に電話をすると、「訪ねて来てもH先生はあなただのことが誰だか分からないから・・・」と言われた。もつと前に終活をしていた

ら先生に会えたと思うと涙が止まらなかった。今生の別れの旅は続く。いよいよ終活に入っているいる整理をしている。へそ曲がり直さないとエンマ様に叱られそうだ。エンマ様におみやげ(善行)を持つていけるよう丸い人間にならねばならないのに、頑固なへそ曲がりには依然として直らない。テレビで野球を観ていると1塁ランナーが盗塁で2塁へ滑り込む。審判がセーフとジャッジし、アウトかセーフで採めることがあるが、タッチされていたら選手のはうから「タッチされたのでアウトです」と何で言わないのかと腹が立つてならない。嘘や誤魔化しがばれなければ得をしたことになるという考えは間違っていると思う。もう四十年ほど前のサッカーのワールドカップでマラドーナ選手がハンドによる得点を決めた。これを世界中が神の手などと称えていたが、このプレーを反則だと声を挙げる人がいなかったことは悲しい。私は囲碁で勝つことは教えない。勝ち負けはどうでもよいのだ。私の教えることは囲碁の心だ。例えば、待つたをしない。負けているこ

とが判明しているのに相手のミスを期待して勝負を続けない。相手の思考の邪魔をしてはいけないことなどの指導に力を入れている。十回やつて十回負けてもいい。負ける時、勝つた時の態度が大事だと教える。スポーツなどのジャッジで、ああたこうだと拘つている私はほんまにへそ曲がりのドアホ。

○月○日 へそ曲がりも人間だ

へその曲がつている自分を弁護する訳ではないが、曲がつても常に使命感と志を抱いてきた。へそ曲がりには決して愚痴は言わない。幾つになつても純粹な心を失いたくない。貧しい家庭で育つたがそれがすべてプラスに働いたおかげで心までは曲げずにすんだ。明日の命の保証もない年齢であるが、あと1年か2年の命を何かの役に立たせたい。やり残していることがある。たぶん無理だと思ふが英会話ができるようになりたい。きれいな文字を書けるようになりたい。読めない漢字がいっぱいあるが一つでも多く覚えて死にたい。カーテンコールなどには縁のないへそ曲がりの人生

だっただけ、褒められもせず苦にもされずといった生き方ができた。算数の学習ボランティアで生徒にVERY GOODをプレゼントするために、もう少し頑張ろう。世を忍ぶ仮の姿で生きてきたが、こんな私を待っていてくれる人もいる。

アニ発奮セザルベケンヤ。